

(小学校社会科教材研究に生かすための)
静岡市歴史博物館ご利用の手引き
令和7年9月5日(改訂)

静岡市歴史博物館

静岡市歴史博物館展示物 と

「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説」(文部科学省)との関連

注) 静岡市歴史博物館では、定期的に展示替えを行っておりますので、ここに記した資料については、展示されていない場合があります。

「新編 新しい社会 6 歴史編」東京書籍 令和7年2月10日発行の関連ページを載せてあります。

●1 第6学年の目標

P97

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(3)社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情^{*1}、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

*1 我が国の歴史についての理解を深めて、国家及び社会の発展に貢献した先人によって作り出された歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養うようにすることである。

●2 第6学年の内容

P106

（内容の取扱い）

(2)我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。

P110

（内容の取扱い）

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

⑦狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりに、むらからくへと変化したことを理解すること。その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。

⑧遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

⑦世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

狩猟・採集や農耕の生活については、貝塚や集落跡などの遺跡、土器などの遺物や、水田跡の遺跡や農具などの当時の遺物が残されていること、日本列島では長い期間、豊かな自然の中で狩猟や採集の生活が営まれていたこと、大陸から稲作が伝えられ農耕が始まると、人々は耕地の近くに定住してむらを作るようになったことなどが分かることである。

古墳については、古墳の規模やその出土品、古墳の広がりなどが分かることである。

アの⑧は、技能に関わる事項である。

例えば、貝塚や集落跡などの遺跡、土器などの遺物について、地域にある博物館や資料館などを利用して調べたり、身近な地域に残されている古墳を観察・見学したり、当時の様子や人物の働きなどを資料で調べたりして、年表などにまとめることなどが考えられる。ここでは、博物館や資料館などを見学して適切に情報を集める技能、年表などの資料から出来事やその時期の情報を読み取る技能、調べたことを年表などに適切に整理する技能などを身に付けるようにすることが大切である。

【本館1階 ギャラリー 展示物】



* 定住生活のルーツは縄文人

「市指定史跡 清水天王山遺跡出土 ^{はちがたどき} 鉢型土器」

:教科書「p8～P19」

複製 約3000年前 原資料は静岡市埋蔵文化財センター所蔵

約1万年続いた縄文時代の遺跡は、南アルプスに続く山々や有度山の麓などで見つかっています。縄文人は、狩りや漁、植物の採集を中心とした定住生活をしていました。縄文時代終わり頃の清水天王山遺跡からは巴の文様が入った土器の他、住居の跡や墓などが発見されています。この頃から穀物の栽培が始まったと考えられています。

* 弥生人は平地で米を育てた

「国特別史跡 登呂遺跡出土 壺形土器」

複製 約1900年前 原資料は静岡市立登呂博物館所蔵

弥生時代になると、平地にも住居があらわれ、米づくりが始まります。登呂遺跡は日本で初めて住居や倉庫と水田と一緒に発見された遺跡で、たくさんの木製農具や土器が出土しました。なかでも、壺は、平行に直線や破線の模様をつけたり、赤く塗ったりして飾られたものが多く見つかっています。

* 庵原の地に 王あらわる

「県指定史跡 三池平古墳出土 ^{へんけいほうかくきくしんきょう} 変形方格規矩四神鏡」

複製 4世紀後半 原資料は静岡市埋蔵文化財センター所蔵

古墳時代になると、地域を支配する王の墓である大型の前方後円墳がつくられるようになります。4世紀後半の三池平古墳は、石室内を朱で塗り、豊富な鉄製品や王の力を示す銅鏡が納められていまし

た。古墳の主は 663 年に朝鮮半島での白村江の戦いで、船団を率いてヤマト政権を支援した盧原（イホハラ）氏の祖先ではないかと考えられています。

* 賤機山古墳

「国指定史跡^{しずはたやまこふん}賤機山古墳出土品」「金銅製棘葉形杏葉(こんどうせいきよくようけいぎようよう)・轡」

6 世紀半ば 静岡市所蔵

賤機山古墳は 6 世紀半ばの円墳で、賤機山の南端につくられました。巨大な横穴式石室の中に設置された家型石棺の周辺には、金銅製の飾り金具が付いた馬具や大刀などが納められていました。これらの特徴から、この古墳の主はヤマト政権とも直接関係をもつ有力者と考えられています。

P112

(内容の取扱い)

- ④大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解すること。
- ⑤遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

この内容は、聖徳太子が政治を行った頃から聖武天皇が国を治めた頃までの学習で身に付ける事項を示している。ここでは、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子の中の三つの事象を取り上げる。

大仏造営については、聖武天皇の発案の下、行基らの協力により国家的な大事業として東大寺の大仏が造られ、天皇を中心とする政治が都だけでなく広く全国に及んだことや、聖武天皇の願いにより鑑真が来日し、仏教の発展に大きな働きをしたことなどが分かることである。これらのことを手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解できるようにする。

【本館 1 階 ギャラリー 展示物】

* 仏の力が国を守る

「国指定史跡^{かたやまはいじ}駿河国分寺(片山廃寺)跡出土 鬼瓦」 :教科書「p24～31」

複製 8 世紀後半 原資料は静岡市埋蔵文化財センター所蔵

7 世紀後半、有力者たちは仏教を信仰し、寺院を建てるようになりました。大きな塔の礎石が見つかった尾羽廃寺跡はそれを物語っています。奈良時代には、仏教の力で国を安定させるため、天皇の命令で全国に国分寺が建てられました。片山廃寺跡は駿河国（静岡県中部）の国分寺跡であり、塔や金堂などが並び建っていた痕跡や大量の瓦の発見は、国を挙げての事業であったことを示しています。



P113

(内容の取扱い)

- ⑥貴族の生活や文化を手掛かりに、日本風の文化が生まれたことを理解すること。
- ⑤遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

【本館 1 階 ギャラリー 展示物】

* お寺は学問と芸能の中心

「舞楽^{ぶがく}面陵王^{めんりやうおう}」

複製 1 2 世紀末～1 4 世紀半ば 原資料は鉄舟禅寺所蔵

* 仏教は 庶民の心のよりどころ

「木造如来形坐像 説法印(伝阿弥陀如来坐像)」

複製 13世紀 原資料は建穂自治会所蔵

12世紀以降、仏教は身近な教えとして庶民の間にますます広がっています。建穂寺は久能寺とともに駿河を代表する大寺院でした。静岡浅間神社で催される稚児舞楽も、この寺に伝えられ、江戸時代にはサクラの名所として親しまれました。

明治時代には廃寺となりましたが、現在も60体以上の仏像が地域の人たちによって大切に守られています。



* 久能寺経

「久能寺経 田中親美模本 随喜功德品」

:教科書「p36～40」

複製 12世紀 原資料は鉄舟禅寺所蔵

平安時代の貴族の間では、極楽浄土にあこがれ、法華経の写経が流行しました。日本を代表する装飾経「久能寺経」計30巻は、鳥羽法皇など多くの人が関わってつくり、うち19巻が鉄舟寺に伝えられています。金箔や美しい絵で飾られたきらびやかな経典には、製作者の美意識や思いが込められています。

・田中親美は古筆研究家で、昭和23(1948)年より8年かけて久能寺経の模本を製作しました。



P114

(内容の取扱い)

- ㊦源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったことを理解すること。
- ㊧遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

(内容の取扱い)

- ㊦キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解すること。
 ㊧遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

この内容は、戦国大名の群雄割拠の状態から、豊臣秀吉が全国統一をした頃までの学習で身に付け
 る事項を示している。ここでは、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一の二つの事象を取り上げ
 る。

織田・豊臣の天下統一については、ポルトガル人によって日本に伝えられた鉄砲を多用するなど
 して織田信長が短い期間に領地を拡大したこと、豊臣秀吉が検地や刀狩などの政策を行ったことな
 どが分かることである。これらのことを手掛かりに、群雄割拠の状態から戦国の世が統一されたこ
 とを理解できるようにする。

㊩は、技能に関わる事項である。

例えば、キリスト教の伝来の様子を世界地図などの資料で調べたり、織田信長と豊臣秀吉の働きを
 比べたり結び付けたりして調べ、年表にまとめることが考えられる。ここでは、複数の人物の業績
 に関する情報を比べたり結び付けたりしながら読み取る技能、調べたことを年表などに適切に整理
 する技能を身に付けるようにすることが大切である。



【本館 2階 展示物】

* 織田信長より早かった！富士大宮の楽市

:教科書「p64～73」

「今川氏真朱印状」(複製)

永禄9(1566)年 原資料は静岡県立中央図書館所蔵 浅間大宮司富士家文書

* 現存最古 東日本で最初の領国を治める法律

「今川仮名目録」

写本 複製 原資料は明治大学博物館所蔵

大永6(1526)年に氏親が定めた、東日本で最初の分国法です。喧嘩両成敗など33ヶ条の条文が
 あります。

「今川仮名目録追加」

写本 複製 原資料は明治大学博物館所蔵

天文22(1553)年に義元が制定した、「今川仮名目録」の追加法です。全部で21ヶ条あり、義
 元が「自分の力量による国の支配」を宣言した条文が、よく知られています。

＊義元、運命の戦いへ

「桶狭間今川義元血戦」

明治時代 静岡市所蔵

織田軍の毛利新助、服部小平太と桶狭間で戦う義元を描いた、3枚続きの錦絵です。明治時代までの義元は、甲冑を着て勇ましく戦う武将としての姿が強調されていました。

「関口氏純書状」
はきぐちうじずみ

「桶狭間合戦稲川義元朝臣陳没之図」

静岡市所蔵

今川義元と桶狭間の戦いについて、取り上げています。

【本館1階展示物】



＊戦国時代末期の道と石垣 ①

「道の遺構」

発掘調査で見つかった、東西に伸びる道とその両側の石垣です。家康が駿府城を築き、まちの姿が変化していた時代の遺構と考えられます。静岡市の中心市街地のルーツである駿府城下町の初期の姿を物語る貴重なものです。遺構を保存しながらご覧いただくため、全国的にも事例の少ない博物館内での露出展示を行っています。

＊戦国時代末期の道と石垣 ②

「道の遺構」

道幅は2.7m、長さは33mあり、当時はもっと長い道だったと考えられます。石垣は自然の石を使った野面積みという積み方で築かれています。これは駿府城跡で見つかった同じ時期の天守台の石垣と同じ積み方です。道に出入口がなく、33mも続いているため、この両側には広い武家屋敷があり、城を守る家臣が住んでいたと推定されます。

（内容の取扱い）

- ㊦江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解すること。
- ㊧遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

この内容は、江戸幕府が政治を行った頃の学習で身に付ける事項を示している。ここでは、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国などの幕府の政策、身分制の四つの事象を取り上げる。

江戸幕府の始まりについては徳川家康が関ヶ原の戦いに勝利を収め、その後、江戸幕府を開いたことが分かることである。

参勤交代や鎖国などの幕府の政策については、大名を親藩、譜代、外様の三つに分けて全国に配置したこと、徳川家光の頃に参勤交代が制度として確立したこと、キリスト教の信仰を禁止し、貿易を統制し渡航を禁止するなど海外との交流を制限する政策を進めたことなどが分かることである。

身分制については、武士を中心とする身分制が定着したことなどが分かることである。

これらのことを手掛かりに、江戸幕府が政治を行った頃、武士による政治が安定したことを理解できるようにする。

㊧は、技能に関わる事項である。

例えば、大名の配置や参勤交代の経路、出島などを通して交易があった国の名称と位置を日本地図や世界地図などの資料で調べ、まとめることが考えられる。ここでは、地図などの資料で歴史上の事象の位置や地域間のつながりなどを適切に読み取る技能、調べたことをまとめる技能などを身に付けるようにすることが大切である。

…。

実際の指導に当たっては、例えば徳川家康や徳川家光の人物年表、エピソードなどから、それらの人物の業績を考える学習、大名行列や出島、踏み絵などの資料を活用して江戸幕府の政策を調べる学習などが考えられる。

【本館 2階 展示物】

* 駿府と家康

:教科書「p76～85」

①「1度目の駿府(映像:年表)」

今川氏のもとで人間としての基礎を育む

②「2度目の駿府(映像:年表)」

豊臣秀吉と対決、そして天下人秀吉を支える

③「3度目の駿府(映像:年表)」

大御所として日本の未来を見つめる

家康は75年の生涯のうち3度、合わせて25年を駿府で過ごしました。最初は8歳から19歳まで、駿府の今川氏のもとで育ちました。2度目は東海地方を治める大名として駿府城を築き、45

歳から49歳まで本拠地としました。最後は、日本の最高権力者（大御所）として、66歳のときに駿府城を大きくつくり変え、駿府でその生涯を終えました。家康の歩みは駿府とともにあったのです。

* 戦う家康

「豊臣政権と家康 徳川家康書状」 静岡市所蔵

東北地方を平定するため出陣した豊臣秀次に、伊達政宗が味方であることを伝えています。

「関ヶ原の戦いと江戸幕府 説明パネル」

「くれないとおどしはらまき紅糸威腹巻」

復元模造 西岡甲房製作 原資料は静岡浅間神社所蔵 県指定文化財
14歳ごろの家康が、今川義元から贈られたとされる鎧です。

紅糸威腹巻の見どころは、名前の通り紅色に染められた組紐、漆を塗り重ねた小札、装飾としての金具、絵韋などです。戦国時代に駿府で栄えた今川氏の甲冑製作の技術の高さが感じられます。

「いよざねくろいとおどしどうまるぐすく しだぐすく伊予札黒糸威胴丸具足(齒笥具足)」

復元模造 西岡甲房製作 原資料は久能山東照宮博物館所蔵 重要文化財
家康が59歳のときの関ヶ原の戦いで身に付け、晩年の大坂の陣にも持って行ったとされます。徳川將軍家では最も重要な鎧とされました。

伊予札黒糸威胴丸具足の見どころは、当時の最高の技術を使って作られた部品です。目立たない部分にも美しい装飾がほどこされており、天下人家康の権威が感じられます。

* いざ関ヶ原！駿府城主の中村氏を味方につける

「徳川家康書状」

慶長5（1600）年 静岡市所蔵

駿府城主の中村一氏が死去した後、弟の氏次と家老の横田村詮（むらあきら）が駿河（静岡県中部）の支配を代わって行うよう、家康が命じています。

関ヶ原の戦いを前に、家康が中村氏を味方につけていたことがわかります。

* 木曾谷から材木を集めろ すべては江戸城完成のため

「ほんだまさすみ おおくほながやす なるせまさしげ あんどうなおじれんしよじょう本多正純・大久保長安・成瀬正成・安藤直次連署状」

慶長15（1610） 静岡市所蔵

駿府の大御所家康を支えた重臣4名が、木曾谷（長野県）の遠山友政（ともまさ）と山村良安（よしやす）に、江戸城（東京都）の工事のため材木を出すよう指示しています。

* 大御所家康と駿府

「征夷大將軍宣旨」

複製 原資料は日光東照宮宝物館所蔵

「徳川家康黒印状」

慶長8（1603）年～慶長13（1608）年頃 静岡市所蔵

家康が喜んだ、大好きな鷹狩りにちなんだ贈り物へのお礼の手紙。

* 家康への贈り物



「望遠鏡と家康」

復元 静岡市所蔵

慶長18（1613）年 イギリス国王ジェームズ1世は、貿易を求めて使節を日本に送り、望遠鏡を家康に贈りました。

* 家康への贈り物

「時計とスペイン国王」

複製 原資料は久能山東照宮博物館所蔵 重要文化財

家康は慶長14（1609）年、日本で難破したスペイン船を救いました。

そのお礼にスペイン国王フェリペ3世は慶長16（1611）年、使節を通して洋時計を家康に贈りました。

* 家康が見ていた世界

「二十八都市萬国絵図屏風 左隻」

宮内庁三の丸尚蔵館所蔵

家康が見た「南蛮世界図屏風」とは異なりますが、1600年代初めの世界地図をもとにした屏風です。日本にあるマークの一つは駿府ではないでしょうか。

* 家康、東海道の交通を整備する

「徳川家康伝馬朱印状」

複製 静岡市所蔵 市指定文化財

* 馬を揃えて対応すべし 江尻宿に出された家康の命令

「伊奈忠次・彦坂元正・大久保長安連署状」

複製 静岡市所蔵 市指定文化財

江尻宿（清水区）に宛てて、この朱印状を持つものだけ伝馬を出すよう命じています

【本館3階展示物】

* これぞ東海道のにぎわい！街道の景観を描いた屏風絵

「東海道図屏風」

江戸時代 静岡市所蔵

東海道を江戸から京都まで描いた屏風絵です。

現在の静岡市域は、右隻に蒲原・由比・興津・江尻・府中（駿府）・丸子の6つの宿が描かれています。

街道沿いの名所や旧跡が多く描かれているのが特徴です。

* 人も物も集まる駿府のにぎわい



駿府城の城下町を描いた屏風です。元和、寛永期（1615～44）の屏風とされています。通りに店が立ち並び、大名の行列が通ります。右隻には清見寺、左隻には富士山、駿府城、静岡浅間神社が見えます。

* 江戸幕府に支えられる梅ヶ島金山

「金山出砂金御買上につき証文の事」

宝暦8（1758）年 個人蔵

江戸時代の金山は幕府が直接管理しており大事な収入源でした。この文書では金の採掘を支えるため、幕府が採れたすべての金を買収することが決まり、村人たちが村で採れた金をすべて幕府に収めることも約束しています。

* 駿府商人たちも支える梅ヶ島金山

「恐れながら書き付けを以て申し上げたてまつり候」

文化10（1813）年 個人蔵

江戸時代後半、幕府は駿府の商人たちに梅ヶ島金山の採掘にかかる費用を賄わせました。駿府に訴訟のためにやってきた村の人々を世話する郷宿を営む三階屋仁右衛門など、名だたる商人たちが合計1200両の費用を出しています。

* 駿府をとりまく産業と流通

梅ヶ島金山で働く人たちのリスト

「梅ヶ島村金掘家数人別覚」

江戸時代（後期）個人蔵

* こんな昔から？梅ヶ島金山の言い伝え

「梅ヶ島村御金山申伝え覚書」

明和2（1705）年 個人蔵

* 他国の湊でも行儀よく！

「船中作法書」

宝暦2（1752）年 静岡市所蔵

町奉行所が出した、清水湊で船を所有し運送業を営む者たちが守るべき決まり事が記された文書です。他国の湊の問屋や宿でも、粗雑なふるまいや常識外れの行動をとらないように厳しく注意しています。

* 各地とつながる清水湊

「船持共申渡」

宝暦2（1752）年 静岡市所蔵

船を所有する者たちが守るべき細かな決まりごとが書かれています。武家荷物と町人荷物を分けることなどが書かれています。江戸・大坂・名古屋・伊勢など、様々な地域から荷物が運ばれてきていたことがわかります。

P117

（内容の取扱い）

②歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解すること。

③遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

この内容は、江戸幕府が政治を行った頃の学習で身に付ける事項を示している。

ここでは、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学の二つの事象を取り上げる。

歌舞伎や浮世絵については、近松門左衛門などによって生み出された歌舞伎の作品が数多く演じられ、それを人々が楽しんで鑑賞していたことや、歌川広重などによって描かれた作品が人々に親しまれたことなどが分かることである。

国学や蘭学については、本居宣長が我が国の古典を研究し、国学の発展に重要な役割を果たしたこと、杉田玄白らがオランダ語の医学書を翻訳して『解体新書』を著したこと、伊能忠敬が全国を測量して精密な日本地図を作ったことなどが分かることである。

これらのことを手掛かりに、江戸幕府が政治を行った頃、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解できるようにする。

* ひらがなで書かれた女子向けの教科書

「女今川初音錦(女今川操花園)」 【本館 2 階展示物】 **教科書「p88 絵巻から見る江戸時代の人々」**

江戸時代後期 静岡市所蔵

江戸時代に出版された女子向けの書物です。今川了俊の今川状をまねて日常の教訓をひらがなで書いており、手習いの教科書として広く用いられました。

* 手習いの教科書になった今川の教え

「今川状(『万歳古状揃字鑑』より)」 【本館 2 階展示物】

嘉永 3 (1850) 年 静岡市所蔵

武将今川貞世(了俊)が養子の仲秋に対して、武士の心得を 23 か条にまとめて示したとされるものです。江戸時代には、手習いの教科書として使われました。

* 町人のくらし

「年行事当番早見」 個人蔵

年行事(惣町の代表)の当番表です。交通を担う上下伝馬町など、公の仕事をする町は除かれました。

* 町人のくらし

「釈祐甫居士肖像」 個人蔵

駿府札ノ辻町にあった菓子屋である扇子屋の当主の肖像画です。筆や如意(僧侶が説法で使う道具)が描かれ、文芸や仏教にも通じた人物であることがわかります。

* 城下町には、大工がいっぱい

「新通大工町絵図」

元文 3 (1738) 年 静岡市所蔵

駿府城下町の新通大工町を描いた絵図です。一つ一つの区画の中に、その家の持ち主の名前と職業が書いてあります。大工が多く住んでいることが分かります。新通大工町は、大御所家康の時代に、大工町の大工が移り住んで来た町とされています。

* 町の状況報告します

「新通大工町覚書絵図」

明和 2 (1765) 年 静岡市所蔵

新通大工町の丁頭から年行事に提出したものです。町の広さ、家数、負担や役割を記しています。町の役目には、品物を選ぶ伝馬町人足や消防にあたる火消し人足がありました。町人には役を免除された大工もいました。

* 武士のもてなしも、年行事の大切な仕事

「年行事中賄方心得書」

安政4（1857）年 個人蔵

* 町のしくみ、武士も知っておかないと

「駿府年行事当番早見（「駿府城沿革」より）」

江戸時代 静岡市所蔵

* 駿府の名店・和菓子屋をのぞいてみよう

「扇子屋之印」

江戸時代 個人蔵

扇子屋で販売する菓子の袋などに押された印です。印には「駿府札の辻町扇子屋庄兵衛」とあり、店の場所と主が名乗った名前が彫られています。また上側には扇子のマークもついています。

* おいしそうな和菓子がたくさん！

「菓子銘帳」

江戸時代 個人蔵

蒸菓子、棹（さお）菓子、饅頭など7種類、合計347個の菓子が書かれています。看板商品の饅頭だけでも20個の商品がありました。駿府の人々が、様々な味を楽しんでいたことが想像されます。

* めでたい席に扇子屋の華やかな菓子

「菓子木型『花かご』」

江戸時代 個人蔵

菓子を決まった形に作り上げるために使う木製の型です。駿府の菓子屋である扇子屋で使われていました。花鳥風月にちなんだものや、めでたい形の菓子木型が残されています。

* 扇子屋秘伝 和菓子のレシピ

「仕様帳」

文化9（1812）年 個人蔵

* おいしそう！駿府の人々が愛したお菓子

「蒸菓子之銘」

天保11（1840）年 個人蔵

扇子屋の蒸し菓子の記録です。春・夏・秋・冬の季節に合わせた商品があります。冬の「寒紅梅」は白小豆餡が紅羊かんで包まれており、梅の花のような鮮やかな赤い菓子が想像されます。

* 菓子のパッケージに押された印

「扇子屋の印」 江戸時代 個人蔵

* もらって嬉しい！扇子屋の菓子折

「菓子折切手の版木」 江戸時代 個人蔵

* 駿府で大人気！饅頭の販売チケット

「饅頭切手」 江戸時代 個人蔵

饅頭10個分の切手（販売チケット）です。饅頭は一個につき10文の値段でした。切手には勝手に書き換えないように注意書きがされています。

*めでたい席に、扇子屋の華やかな菓子

「菓子木型(月と松)」 江戸時代 個人蔵

*人宿町三丁目のお駒

「お駒のお題 甲子福祭之駒物」

甲子祭とは、60日に1度の甲子の日に、子の刻（午前0時ごろ）まで起きて大根を備え、家の繁栄を願って大黒天をまつる風習です。駿府や江戸（東京都）など各地の祭礼で、甲子祭を題材にした駒が見られます。

「廿日会御祭礼甲子福祭駒物」 個人蔵 弘化5（1848）年

弥平・中川梅縁筆

これは、人宿町三丁目の宮嶋宗蔵が町内で出した駒のようすを描かせたものです。静岡浅間神社の廿日会祭では、町人が仮装行列や台の物（屋台）からなる「駒」を出しました。ほかの地域からも大勢の見物客が訪れ、町がにぎわいました。

*茶の生産者たち、訴える

「茶一件につき願書」 安政4（1857）年

安倍郡（静岡市葵区）の村々は、茶の商いをめぐって不利益を受けているとして長い訴状を書いて代官所に訴えました。山間地で茶の栽培が盛んになると、商いをめぐるもめごともあり、村々は訴えるために連合しました。

*清水湊から船が駿府に運んだ品物

「天保十二丑年駿府上ヶ諸荷物上土舟廻シ高井二駄数調書」

天保14（1843）年 静岡市所蔵

清水湊から巴川を船で伝い、上土（静岡市葵区）まで運ばれた品物の一覧です。上土からは陸路で駿府へ運ばれました。米や油など17種類があげられ、およそ6500品の荷物が運ばれていたことがわかります。

*駿府の名物、お茶と安倍川

「双筆五十三次 府中」

安政元（1854）年 歌川広重・豊国合作 静岡市所蔵

広重が風景を、豊国が人を描いています。安倍川では旅人が川を渡る川越しの風景が見えます。茶摘みをする女性と子供がいます。府中（駿府周辺）で、茶の栽培が盛んなことが浮世絵師にも知られていました。

(内容の取扱い)

- ㊦黒船の来航、廃藩置県や四民平等の改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解すること。
- ㊧遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

この内容は、幕末から明治の初めの頃の学習で身に付ける事項を示している。ここでは、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などの事象を取り上げる。

黒船の来航については、ペリーが率いる米国艦隊の来航をきっかけに我が国が開国したことや江戸幕府の政権返上に伴い勝海舟と西郷隆盛の話し合いにより江戸城の明け渡しが行われたことなどが分かることである。

廃藩置県や四民平等などの改革については、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允らの働きによって明治天皇を中心とした新政府がつくられたこと、明治天皇の名による五箇条の御誓文が發布され新政府の方針が示されたこと、明治政府が行った廃藩置県や四民平等などの諸改革によって近代国家としての政治や社会の新たな仕組みが整ったことなどが分かることである。

文明開化については、福沢諭吉が欧米の思想を紹介するなど欧米の文化が広く取り入れられたことにより人々の生活が大きく変化したことが分かることである。

これらのことを手掛かりに、幕末から明治の初めの頃、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解できるようにする。

* 明治維新と静岡

「江戸を救った駿府の一日」(映像) :教科書「p104～5 若い武士たちが幕府を倒す

慶応4（1868）年、江戸城を戦うことなく明け渡し、多くの人の命を救った江戸無血開城。この事前会談は駿府の伝馬町で行われました。江戸にいる慶喜を追って東海道を進軍する西郷隆盛に、江戸から駆け付けた山岡鉄舟が降伏の条件を直談判で交渉しました。山岡鉄舟のこの交渉がなければ、江戸城での勝海舟と西郷隆盛の会談は成立しなかったかもしれません。

* 新政府軍、駿府城を占領する。

「東征大総督滞陣駿府」

明治26（1893）年発行 静岡市所蔵

東征大総督有栖川宮が率いる新政府軍は、駿府城の城代屋敷に陣を置きました。新政府軍の西郷隆盛と幕臣の山岡鉄太郎が会談した慶応4（1868）年の状況です。

* 最新の学問を教えていた先生たち

「静岡藩御役人附 下」

複製 明治初期 原資料は沼津市明治資料館所蔵

静岡藩の役人一覧のうち、静岡学問所の教授や職員の一覧の部分です。少参事学校掛に向山黄村や津田真一郎（真道）、一等教授に中村敬太郎（正直）の名前がみえます。

* 静岡商法会所

明治2（1869）年、静岡藩内の産業や商いを復興する組織として、藩が運営する商法会所が設立されました。藩だけでなく、地元の有力者も出資し、運営に携わりました。商法会所では、藩外から買い付けた米を藩内で売り、茶や漆器など地元の名産を藩外に売りました。また商人への資金の貸し付けも行いました。利益は、静岡藩の重要な資金源になりました。

* 商人たちの力を結集 静岡藩を支えた商法会所の活動

「商法会所日記」(複製) :教科書「p127 日本の経済や産業の発達に貢献」

明治2（1869）年3月7日－6月30日 原資料は渋沢資料館所蔵

静岡商法会所で行った業務を日ごとに記しています。渋沢栄一（篤太夫）や会所につとめる商人たちの動静、静岡を中心に産物の取引を行ったことなどが記録されています。

* 静岡藩を支えた商法会所の活動

「商法会所日記」

複製 明治2（1869）年3月7日～6月30日 原資料は渋沢史料館所蔵

商法会所で行った業務を日ごとに記しています。渋沢栄一（篤太夫）や会所につとめる

商人たちの動静、静岡を中心に産物の取引を行ったことなどが記録されています。

* 渋沢、商法会所ついで常平倉を経営

:教科書「p108～9 新しい世の中の文化や生活」

「渋沢篤太郎(栄一)書状」

明治2（1869）年 静岡市所蔵

* 静岡で出版された明治初期の大ベストセラー

中村正直訳「西国立志編」

明治3（1870）年 静岡市所蔵

中村正直の著作で、静岡藩の時代に静岡で出版されました。西洋人の立身出世の物語『自助論』を翻訳したもので、自助の精神を日本に広めました。

* 静岡で新聞発行 市民にニュースを伝える

「静岡新聞第1号」

明治6（1873）年 静岡市所蔵

静岡市呉服町の提醒社が発行した、静岡市で最初の新聞です。ニュースや世論を伝える新聞が文明の開化に役立つとしています。また、小学校建設のための寄付が進んでいることを報じています。

* 静岡茶、清水から横浜へ

「清水より横浜港へ航海運賃の約定書」 :教科書「p119 グラフから歴史的事象を読み取る」

明治10（1877）年 静岡市所蔵

茶を清水港から横浜港に運ぶため、鈴木与平と代理人の沢野精一らが、東京の西洋帆船を借りる約定を交わしています。明治初期には、茶は清水港から横浜港に運ばれて輸出されていました。

* 安倍川に初めて橋ができた！

「安倍川架橋記念」

明治7（1874）年3月 静岡市所蔵

江戸時代までは橋がなく歩いて渡っていた安倍川に、橋が架けられたことを記念して作られた刷り物です。地元の有力者である宮崎総五が橋の建設に大きく貢献しました。

(内容の取扱い)

- ㊟大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解すること。
- ㊟遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

* 市民の代表、議員の選挙はお浅間山で

:教科書「p110 板垣退助と自由民権運動」

「静岡市会議員選挙会場につき静岡浅間神社承諾書」

明治22(1889)年発行 静岡市所蔵

静岡市制施行の1889年、静岡市会議員選挙が行われ、議員が選ばれました。選挙会場は「神部浅間大歳御祖神社」こと静岡浅間神社です。選挙の後の市会で星野鉄太郎が初代静岡市長に選ばれました。

* 三十四連隊が来た頃の静岡市街地

「静岡市及四隣精図」

明治30(1897)年 静岡市所蔵

駿府城跡に陸軍歩兵第三十四連隊が置かれたばかりのころに発行された地図です。

城内には連隊の建物が書き込まれ、城の北東には練兵場が出来ています。

* 静岡から陸軍への働きかけ

「兵営設置の為土地献納願之件(「旧駿府城地関係書類」より)

明治29(1896)年 静岡市所蔵

静岡市長の星野鉄太郎から、陸軍大臣の大山巖(いわお)に出された書類の原稿です。静岡の立地の良さをアピールし、陸軍に駿府城の土地を献納したいと述べています。

* 井上馨銅像、興津に建つ！

「井上馨銅像」

:教科書「p116～117 条約改正をめざして



岡崎雪聲作 明治初期ごろ 静岡市所蔵

明治43(1910)年、興津(静岡市清水区)の米糠山に高さ4.85mの井上馨の銅像が出来ました。これはそのミニチュアです。銅像は井上を慕う住民の寄付で建てられました。

* 海の向こうに届いた駿府の技術

* 静岡茶のPRパンフレット

「茶のかおり」 静岡市所蔵

静岡県茶業組合連合会議所が発行しました。戦前には静岡茶は清水港からアメリカ、ロシア、ヨーロッパ等に輸出されました。また、茶にビタミンCが含まれていることもアピールされています。

* 世界に届け、静岡のお茶

「茶箱」 近代 静岡市所蔵

日本茶は、茶箱に詰められて海外に輸出されました。茶箱の外側には浮世絵の技術を用いたカラフルな茶箱絵が貼られ、外国の人の目を楽しませました。



* 静岡のご当地ソング「ちゃっきりぶし」誕生！

「北原白秋自筆 歌詞原稿「ちゃっきりぶし」(複製)」

昭和2（1927）年 原資料は静岡鉄道株式会社所蔵

詩人の北原白秋が作詞した「ちゃっきりぶし」は、狐ヶ崎遊園地の開園を記念して、静岡電気鉄道株式会社（現在の静岡鉄道株式会社）の依頼で作られました。

* 外国に出荷するためのラベル

「蘭字ラベル」 近代 静岡市所蔵

アメリカ合衆国のニューヨークに輸出された日本茶のラベルです。

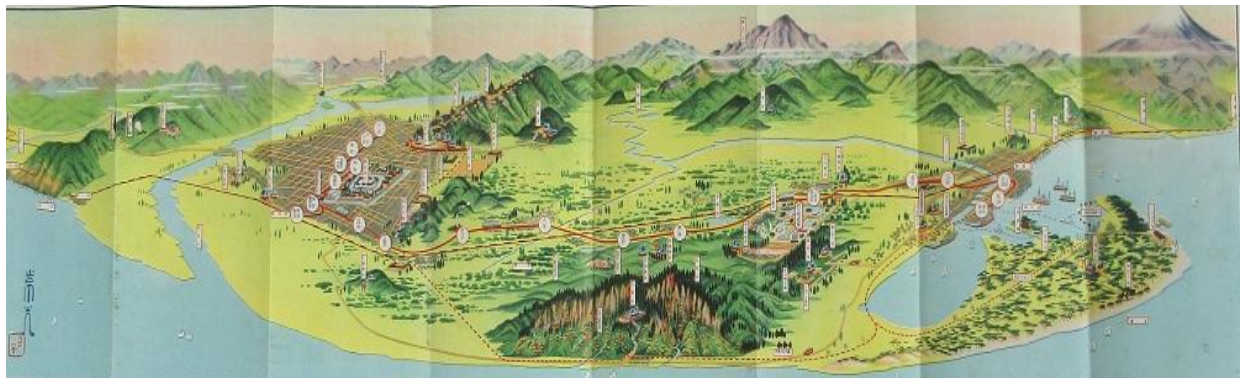
英語の商標とマークが木版で刷られていますが、「J」の字の左右が逆になっています。



【1階 ギャラリー】

「静岡電気鉄道沿線案内」 静岡市所蔵

静岡と清水の間を通る静岡電気鉄道と沿線の観光名所を描いたパンフレットのさし絵です。駅を○、路線を赤線、名所は四角い枠で記しています。右手に清水港、三保松原、左手に静岡市街と安倍川、中央に久能山があります。静岡電気鉄道の路面電車は鷹匠駅（現在の新静岡駅）から東海道線静岡駅につながり、清水港にも続いていました。赤い点線は、建設が予定されていた久能線、三保線の計画路線です。



P122

（内容の取扱い）

- ㊦日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること。
- ㊧遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

【本館3階展示物】

:教科書「p134 すべては戦争のために」

*「神話」も歴史の一部だった 戦前の教科書

「新撰女子国史 低学年用」

昭和3（1938）年 静岡市所蔵

「新制女子国史」

昭和12（1937）年 静岡市所蔵

戦前には神話が歴史の授業で教えられました。また、子供たちにも国のために尽くすことを求める教育がなされました。

*戦争への動員 空襲と戦災

:教科書「p136 空襲で日本の都市が焼かれる」

「終戦直後の焼け野原」

個人蔵

「戦死した兵士の遺骨を抱いた葬列」

個人蔵